

の獻れる長歌に、日本乃野馬臺能國遠賀美侖伎能宿那昆古那加葦菅遠殖生志川々國固米造介牟與理云々とよめる。此書今傳はれる古事どもには見えざれども、かくよめるは、必そのかみ據ありけむ。さればもと大穴牟遲少名昆古那二柱御神の國造堅めむために、植生し廻らしたまへるなりけり。かくて中昔のころまでも、海の渚には、いづくにも葦の多かりしこと世々の歌どもなどを見てもしるべし。さて此葦原中國てふ號には、くさぐ說あれども、皆古の意にかなはず。そのわろき由は、ことぐに論はむも、わづらはしければもらしつ。○中略

### 豊。また大てふ稱辭

葦原中國、秋津島などに、豊てふ言を冠させて、豊葦原中國、豊秋津島といひ、八島倭などには、大てふ言を冠させて、大八島、大倭といふ、これらの國號のみにもあらず、凡て豊とも大ともいへる例多き、みな上つ代の稱辭なり。然るを大日本などいふ大は、もろこしの國にて、當代の國號をたふとみて、大漢、大唐などいふにならへる物ぞといふ說のあるは、古のことをしらぬ、例のおしあてのみだりごとなり、もし然いはゞ、かの豊葦原などの豊は、いかにとかいはむ、こはかの國にはさらには聞えぬ美稱なるものをや、又もろこしにては、王の母を大后とはいふを、皇國の古には、當御代の嫡后を大后と申せりき、これらも、大といふこと、すべてかの國にならへるにあらざる證なり、然るを書紀には、古稱をたがへて、大御母をしも、皇太后と記されたる、これぞ彼國にならへるにては有ける。書紀にはかく彼國にならひてかゝれたる事もおほきからに、神代よりありこじ事をも、かれと似たるをば、皆ならへるにやとは疑ふなり、抑大てふ美稱は大臣、大連などいふたびひ猶多し、みないと上つ代よりのことにて、大倭といへるも、古事記の景行天皇御段に、熊曾建が詞に、大倭國と見え、また懿德天皇、孝安天皇、孝靈天皇、孝元天皇などの大御名、又古事記には、意富夜麻登玖邇阿禮比賣命と假字に書る御名さへあるをや。